

男性看護師の就業状況・環境に関する 認識と実際

—男性看護師の年代別での比較—

第34回日本看護科学学会学術集会発表

全国男性看護師会

目的

女性：看護婦

男性：看護師

2002年 看護師と名称変更

女性看護師

男性看護師

近年では

精神科や救急救命センター等への配属が多い傾向にあった。

様々な領域で活躍する男性看護師が増加。
(1つの部署に複数の男性看護師が存在する場合もある。)

その一方

1部署への配属数が限られていたり年代に偏りがあるなど、
就業状況は女性看護師とは異なると考える。

目的：男性看護師の就業状況・環境に関する認識と
その実際について年代別での特徴や違いを明
らかにする。

方法①

対象

全国の150床以上の病院で、複数（2診療科以上）の診療科を有する1,150施設の内、本研究に協力の得られた544施設に勤務する男性看護師（准看護師を含む）8,539名。

調査期間

平成24年12月～平成25年4月

調査方法

無記名の選択式一部記述式の自記式質問紙調査を実施した。
回収は、回答者本人による郵送法とした。

調査項目

対象者の背景、女性看護師との仕事上の関係づくり、仕事に関する相談相手、就業状況・環境に関することとした。質問内容は、男性看護師9名で検討し、2回のプレテストを実施し内容の追加・修正を行った。

方法②

分析方法

対象者の年齢を20歳代、30歳代、40歳代、50歳代以上の4群に分け各項目の無回答を除き、 χ^2 検定と残差分析または一元配置分散分析と多重比較を実施した。なお、有意水準は0.05%以下とした。

分析には統計解析ソフトSPSS statistics21を用いた。

倫理的配慮

研究代表者が所属する施設の倫理審査会の承認を得て実施した。

具体的な配慮として、対象者に研究目的と方法、協力の自由性、匿名性の保持、結果の公表および質問紙の返送をもって本研究への同意とする旨を書面にて説明した。

結果①

回答者

全体で3,713名(回収率43.5%)

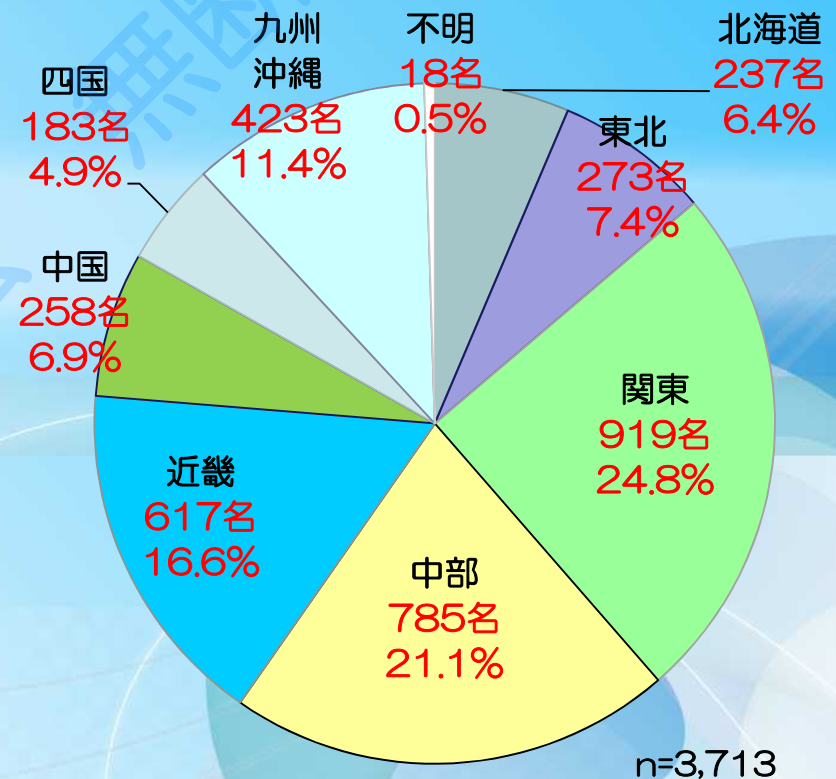
回答者の背景

平均年齢33.2±7.8歳、
平均臨床看護経験年数9.54±7.4年目

配属先

最多、内科系病棟543名(14.6%)
次いで、混合病棟542名(14.6%)

回答者の勤務施設の所在地



結果②

女性看護師と仕事上の関係づくりにおいて苦慮した経験

	年代				合計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	
経験が「ある」 (人)	455	579	186	67	1,287
経験年数群の%	41.1%	42.7%	46.0%	46.9%	42.8%
調整済み残差	-1.4	-0.1	1.4	1.0	
経験が「ない」 (人)	651	778	218	76	1,723
経験年数の%	58.9%	57.3%	54.0%	53.1%	57.2%
調整済み残差	1.4	0.1	-1.4	-1.0	
合計 (人)	1,106	1,357	404	143	3,010

結果③

男性看護師は目立つ存在であると思う程度

経験年数			
年代	n	M (SD) 思う5点 思わない1点	多重比較 Games-Howell (p値)
20歳代	1,356	4.30 ± 0.88	20歳代 > 30歳代 (0.000) 20歳代 > 40歳代 (0.000)
30歳代	1,677	4.16 ± 0.93	20歳代 > 50歳代以上 (0.000)
40歳代	486	3.95 ± 1.06	30歳代 > 40歳代 (0.001) 30歳代 > 50歳代以上 (0.012)
50歳代以上	171	3.89 ± 1.10	
合計 (人)	3,690	4.17 ± 0.94	

結果④

仕事に関する相談相手（複数回答）

	男性看護職者	家族	友人・知人	女性看護職者
20歳代	511	351	383	232
30歳代	552	577	271	260
40歳代	124	162	65	80
50歳代	46	56	25	25
合計	1,233	1,146	744	597

(名)

結果⑤

同じ病棟や病院に男性看護師がいることで心強さや
安心感はあると感じる程度

経験年数			
年代	n	M (SD) 感じる5点 感じない1点	多重比較 Games-Howell (p値)
20歳代	1,265	4.61 ± 0.80	20歳代 > 30歳代 (0.000) 20歳代 > 40歳代 (0.000)
30歳代	1,618	4.37 ± 1.00	20歳代 > 50歳代以上 (0.000)
40歳代	460	4.23 ± 1.08	30歳代 > 40歳代 (0.048)
50歳代以上	165	4.25 ± 1.06	
合計 (人)	3,508	4.44 ± 0.96	

結果⑥

今後男性看護師が増加することを期待する程度

経験年数			
年代	n	M (SD) 期待する5点 期待しない1点	多重比較 Games-Howell (p値)
20歳代	1,354	4.16±0.94	20歳代 > 30歳代 (0.000)
30歳代	1,675	3.97±0.97	20歳代 > 40歳代 (0.000)
40歳代	487	3.85±1.05	20歳代 > 50歳代以上 (0.011)
50歳代以上	171	3.89±1.04	
合計 (人)	3,687	4.02±0.98	

まとめ

- ①男性看護師は良くも悪くも目立つ存在であると思う程度は20歳代、30代で有意に高い。
- ②同じ病棟や病院に男性看護師がいることで心強さや安心感があると感じる程度は特に20歳代で有意に高い。
- ③今後男性看護師が増加することを期待する程度は20歳代で有意に高い。
- ④仕事に関する相談相手としては、「男性看護職者」が最も多く、特に20歳代では第1位である。



- ◎ 20歳代の者は他の年代に比べ少数派であるとの思いや男性看護師としての存在をより意識していると推察する。
- ◎ 各部署へ複数の男性を配置するなど、より身近に男性看護職者が存在する就業環境を整えることが望まれる。